二十五日、衆院本会場で行われた盧泰愚韓国大統領の演説の全文次の通り。

盧泰愚韓国大統領の国会演説全文

私は大韓民国の国家元首として、歴史上初めて日本国会の演壇に立たことを光栄に思っている。それは、この議事堂が過去百年間の日本における議会民主主義の発展の場であり、皆さまがまさに世界で最も繁栄した民主国家を達成した一億三千万の日本国民を代表しているからである。

私がこの演壇に立つまでには、曾目両国と東洋の将来に思いをはせた多くの先覚者の夢と犠牲、時代の激浪があった。曾目両国が互恵平等と真の善隣友好を享受する日を胸に描いた、これらの先人たちの願いが実現できるよう歴史が進展してきたのに対し、私は感謝と深い感慨を覚える。

今回、私に演説の機会を与えて下さった衆参両院議長、与野各党の指導者と議員に謝意を表し、韓国国民が日本国民に送る温かい友情のあいさつを伝える。

私は曾目両国が相互尊重と理解に基づいて、今後近くて近い同伴者になればならないという信念を持って日本を訪問した。二十一世紀を目前にした世界の激変の中で、隣接したわが両国は来志向的な関係を開くべきであるとの裏情から、本日私は率直な見解を皆さまに披瀝する所存である。

第一次大戦の終戦と同時に曾目両国は各新しい国づくりに励んだ。それからすべてのものが変わった。わが両国国民は変化とともに大きな成就を得ることができた。

日本国民は戦争の廃墟の跡に、世界の驚異の的である経済大国を建設した。日本は科学技術でも世界の先頭を進む国家になった。かつてヨーロッパ育った資本主義と議会民主主義の精神が、たいへん遠い東方のここ日本で開花している。

十九世紀後半に西洋文明が押し寄せたころ、東洋の先賢たちは東道西器（和魂洋才）を語り合った。日本はいち早く西洋を追い越すという望みをかけた。日本の伝統文化に西洋文化を融合する独創的努力を続けながら、新しい文化の華を咲かせた。

私は日本国民と指導者たちに敬意を表する。

四十五年前、植民統治から解き放たれた韓国国民の喜びはある日突然国土分断の悲しみに変ぼうした。それ以降わが民族は試練の道を歩まねばならなかった。一九五〇年六月二十五日未明、北韓軍の全面侵によって、戦後世界を対決態にさせた冷戦が朝半島で烈な戦争となって爆発した。三年に及ぶ戦争は数百万の尊（い）な命とわれわれの財産を根こそぎ奪い去った。

六〇年代初頭に本格的な経済開発に着手した、わが国民は、東京オリンピックの壮観をせん望のまなざしで見守った。日本の発展はわが国民に自信と勇気を呼び起こした。

韓国国民は受難と失意を踏み越えたわが国民は、資源も、資本と技術も貧弱だった韓国の開発には多くの困難と挑戦が伴った。しかし、わが国民は決して挫折しなかった。一世代にわたる血と汗のにじむ努力で韓国は非農業産業国家を発展した。

わが国民はソウル・オリンピックを十二年ぶりに東西世界が一堂に集う平和の祭典として立派に成し遂げた。三十八年前、二十カ国の青年が銃剣を交え、血を流したあの殺伐いが、人間を人間らしく社会の地の全世界の若人たちが手に手を取っお互い各分つ隙間を乗り越え、和合の広場で技を競い合った。大きな試練から立ち上がったわれわれの成就は、暗い歴史に対する高価な勝利だった。

韓国の急速な発展が数多くの開発途上国家や社会主義諸国のひとつの見本になっていることに対して、また冷戦による対決と戦争にさいまれてきた国が人類の和合に貢献する国になったことに対して、わが国民は限りない誇りを感じる。わが国民のもうひとつの誇りは民主主義の時代を開いたことである。

約四十年近い政治的混乱の中でも、自由と民主主義に寄せる韓国国民の熱い念願と闘争は絶え間なく続いた。三年前の「6・29民主宣言」の高貴な政治的自由を無限に開放している。韓国の民主花は豪快な制度はもちろん、社会の価値体系と国民意識に至るまでを大幅に変えてしまった。いま過去の尺度では今日の韓国は理解できなくなった。

私は民主主義を行うことは実に困難だという体験を、誠実に率直に話し掛けたいと思う。

詩人韓龍雲（ハンヨンウン）先生は「私があなたを愛するのは――他の人が私の紅顔、私の微笑だけを愛するだけであるとしたら、あなたは私の白髪さえ愛するだろう」と歌った。暗い時代を生きたこの詩人の祖国愛の深さのように、民主主義も憎しみまで愛する心で根をおろさなければならないと私は信じている。

民主主義が何でも解決できる制度であるとは速断できない。人類の普遍的価値になりつつある。この世紀的な大変化は古い理念と体制はもちろん、境さえ壊している。

世界のこの大きな変化を挑戦と捉えているのである。われわれは戦体制に代わる新しい秩序を待望しているが、それはまだ不確実性の中に隠れている。今日の世界には定に尽くすわれわれの最大の充満し理性が力の論理を支配しつつあるが、世界秩序として形成されるまでにはさらに遠い道程を歩まねばならないだろう。軍縮は進展を見せているが、核武弾が人類の文明を一瞬にして破壊できるといった恐怖は取り除かれてはいない。

自由と民主主義に対する信念を本日皆さまとともに分け合うのは私だけでなく、韓国国民すべての生きがいであり喜びにほかならないのである。第二次大戦の殺戮やんだその時からわが両国だけではなく、世界もおびただしい敷延され、この世界に前代未聞の繁栄をもたらした自由貿易も戦争を逃れている。世界貿易の不均衡は保護貿易の傾向を誘い、貿易摩擦は深化されつつある。地域主義化されつつある。地域主義になったように、戦争の危険がうずまく分断の地で人類和合のオリンピックが開かれたように、韓半島に統一の日が必ず訪れるだろう。世界にあふれる和解の流れにおかわらず、韓半島の休戦ラインは凍土として残っている。北アジアは、過去百年間、五回にわたる大きな戦争を経験した。

曾目両国は同伴者として先頭に立ち、太平洋時代を開いていかなければならない。そのためにわれわれはこの地域の開放性と多様性を基盤に、あらゆる国家を援助する効率的な協力の分野を築かなければならないのである。いま同盟の問題である。日本は東西冷戦の対決態に対して、中立の姿勢を堅持しつつ、技術移転に消極的である。

海外市場における韓国の輸出増大が、日本企業に多少の痛と試練、その裏側に耐え難い悲劇をもたらしている面もあるだろう。しかし、それは皮相な見解であり、日本からのより多くの輸入が誘発されてきたことは、アジア・太平洋諸国家の経済発展が日本の外交使節だった。厳原から江戸に至る遠い道程は友情の出会いによって開かれた。両国の不幸であった時期は友好善隣の長い歴史を通して見れば、相対的に短い期間である。

日本には「流れる水は水車を回せない」ということわざがある。しかし、水車を回す新しい水は絶えず流れてきている。わが両国国の善隣友好の時代はこのようにして再び開かれるだろう。日本人が大切に培った茶道は古代韓国陶工たちの虚吹が宿る茶器と、日本民族の清浄な精神（道）が調和を成している。ここにはいかなる民族の優越感も存在しない。ただひたすら調和の中で発展できる美と生命の創造があるだけである。真の隣人とはまさしくこのような関係を指すものではないだろうか。共通の理想を分かつわが両国はこのような関係の上で世界へ、未来へと手に手を取って進まなければならない。

近くて近い隣人として、信頼し合う友人として、より平和で繁栄に満ち、自由と幸福があふれる世界を共に創造しよう。

韓半島の古代交流が日本列島に渡り、日本の近代化の波が韓半島に押し寄せたのである。朝鮮植民地支配は幕府による鎖国政策にもかかわらず、江戸に入ることのできた唯一の外交使節だった。厳原から江戸に至る遠い道程は友情の出会いによって開かれた。両国の真実に基づく理解であり、それを王台として明るい未来を開くということである。

フランス人、ドイツ人、イギリス人がひとつのヨーロッパ人となっているのは、彼らが真実の力で過去の過ちをすっかり洗い流し新たな歴史の創造に共に乗り出すことができたからである。過去を忘れたことは神でさえも変えることはできない。しかし、歴史は現在のわれわれが過去をどう考え、どう理解するかの行動次第で過去の束縛を断ち切り、過去の怨念を消し去ることができるのである。

われわれ皆の勇気と努力が必要とされている。これに関連して私がこの席で特に皆さまにお願いしたいことは、過去の歴史によって日本に居住する韓国人の問題である。日韓国人の問題は、戦後日本の再建と発展に参与した、彼らが親しい隣人として何の不安もなくこの国で暮らすことができるとき、両国民は皆日友好を胸に感じることができるだろう。

ただいま日本は過去の日本ではなく、新しい日本として生まれ変わった。歴史と世界和で繁栄に満ち、自由と幸福があふれる世界を共に創造しよう。

来る世紀には東京を出発した日本の青年が海底トンネルを通過して、ソウルの親友と一緒に北京とモスクワに、パリとロンドンに、大陸を結び世界を一つにつなぐ友情旅行を楽しむ時代を共に創造しよう。

来る世紀には東京を出発した日本の青年が海底トンネルを通過して、ソウルの親友と一緒に北京とモスクワに、パリとロンドンに、大陸を結び世界を一つにつなぐ友情旅行を楽しむ時代を共に創造しよう。